



でんえい会誌 第23号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



〈電影会会長就任にあたって〉

電影会会長 川村信之 (E53)

春爛漫、学び舎に卒業生や新入生が、満開の櫻に集う季節となりました。昨年の総会で北村前会長の後任として電影会会長に就任しました川村信之です。

電気系学科卒業生に対する社会の期待は極めて大きく、深い専門知識にグローバルな視野を持って社会に貢献する事が求められています。電影会もこのような観点から、懐旧の会に止まらず、卒業生ばかりでなく、在校生、先生方も含めた相互啓発の魅力ある同窓会にし、多数の方々をご参加下さるような会を目指したいと思います。

母校は現在、全国の国立大学法人の中でも次々と先進的な試みを進める魅力あり、活力ある大学として進んでいます。本年度からは大学院との6年一貫教育、社会ニーズをとらえた魅力ある学科編成等の体制整備が始められており、電影会の母体ともいべき電気系学科(電気・電子)も機械系と統合し電気・機械工学科として生まれ変わっています。大学も常に社会との繋がりに目を向け、社会の評価も念頭に研究・教育活動を進めるべき時代となっています。大学の優秀な頭脳と産業界の行動力が両輪で「協働」する事で社会に大きな貢献ができます。名工大自身が自らの意思で活性化に意を払い、少子化を迎えたこの状況の中で、地域・産業と緊密な連携をとった大学として生き残りをかけて行く事が戦略の要と考えられます。

こうした方針の大学を支援する組織として同窓会活動をとらえてみますと、従来行ってきた同窓生の交歓の場に比重をかけた活動から、大学と同窓会の連携を如何に強化するかという点に今後の同窓会活動の方向性が集約されてきています。

こんな状況の中、我々電影会としても今迄以上に有意義な活動を強化すべく活動してまいります。これは、大学にとっても、学生・教官にとっても意義があり、「同窓会」ならではの具体的な活動の推進です。特に、その中で実績をあげつつあるのが「卒業生と学生の懇談会」の活動で、就職選択の学生にとって大学主導の就職斡旋から、学生自身の就職活動へと選択の幅を広げる一助になってきています。あまりにも多くの情報で自律的な会社選択が難しくなってしまった現状の中、卒業生の豊富な経験を聞き、情報交流の機会を持つことで、学生自身の就職選択に生かして頂く時宜を得た企画となってきました。今迄は、学生にとって卒業してからしか参加しないものとして縁遠かった電影会が、こうした企画で身近で頼れる存在に近づきつつあると思います。

今後、電影会も名工大も、大学力を強化するため、卒業生との連携を密にすることが益々必須となりつつあります。私の在任中はそのような課題を持って取り組んでいくつもりですので、会員の方々のご支援とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

〈第1回ホームカミングデー〉

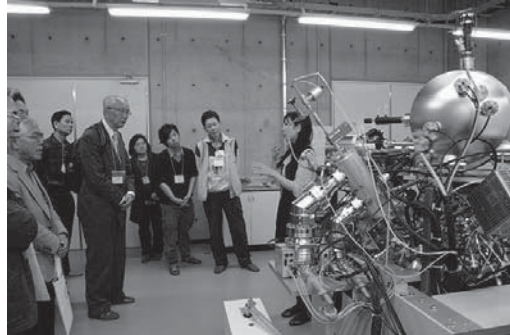
情報工学教育類 内匠逸 (Es57)

まさに秋晴れとなった11月21日、「これまでの感謝の気持ちとこれからの未来にむけて」という副題を掲げ第1回ホームカミングデーが開催されました。電影会のご協力も得て、参加受付数が約250名と大成功でした。お礼を兼ねて概要を報告します。

初めての開催ですので、イベント内容を吟味しました。卒業生の皆様にとって、大学の今が最大の関心事と考えましたが、在学中の鮮烈なご記憶に拠って、ご期待も異なります。そこで、研究室へのご期待には、スタンプラリーを取り入れた研究室見学。大学の設



記念公演中の高井一氏



学内見学ツアーの一コマ



研究室見学で 3D プリンターに感動

備・施設・組織へのご期待には、学内見学ツアーでお応えしました。加えて、多くのクラブが協力しました。

スタンプラリーによる研究室見学には、17の研究グループの協力を得て、工大祭と共同で見学者を募りました。21, 22日の両日で200人以上が見学しました。スタンプラリーの台紙は、投票用紙、アンケート用紙を兼ねており、好評を得た5研究室には、賞状と副賞が贈られました。電影会の関連では、船瀬准教授・打矢准教授、佐藤教授・坂上助教、小坂准教授の3グループがその榮譽に輝きました。

学内見学ツアーは、大型設備基盤センター、附属図書館、交友会館を巡るものです。大型設備基盤センター長の種村教授のご協力により、国内でも貴重な実験装置類の見学が実現しました。ご参加の皆様には、大変に満足して頂きました。

これと並行して、多くのクラブが模擬店を出しました。工業会会員の方々には、これらの模擬店で使用できるクーポン券が渡されました。クラブの先輩諸氏に立ち寄って頂く良いきっかけになったようです。

午後は、メインイベントの歓迎式典として、本学特任教授、東海テレビの番組「スイッチ！」のコーナー「はじめまして」でお馴染みのアナウンサー高井一氏に“もっと「言葉」でつたえよう”と題した公演をして頂きました。会場は、旧電子工学科棟の場所に新築されたばかりの4号館1階のホールでした。

高井先生は、授業の経験にもとづき、工学系の方々への貴重なアドバイスを柔らかな語り口で話されました。司会の松井美智子アナウンサー（日曜日の番組「スタイルプラス」でお馴染み）とのエピソードもご披露頂き、華やいだ雰囲気演出して頂きました。

続いて、大学会館の生協食堂にて懇親会です。管弦

楽団の学生による奏楽でスタート。ロボコン部、ソーラーカー部の活躍ビデオ放映とともに、ご支援へのお礼のために、現役学生も参加しましたので、懇談の輪が広がりました。



<http://www.nitech.ac.jp/guest/hcd/index.html> を是非ご覧ください。当日の感動が、YouTube 動画やフォトギャラリーで体験できます。

名工大は111周年を迎え、第3期中期計画が開始されました。世界で活躍できる理工系人材を育て、世に送り出します。そのためにも、名工大の今を同窓の皆様に見て頂き、ご理解とご協力を得たいと考えています。ホームカミングデーに合わせて、同窓会の開催などはいかがでしょうか。第2回はさらなる感動を演出します。2016年11月3日の文化の日開催です。11月1日の創立記念日に始まる一連の行事で盛り上げます。内容は順次ホームページに掲載します。メイン会場は、**新築となった新講堂**です。どうぞお越しくださいませよう、お待ち申し上げます。

<新学科「電気・機械工学科」について>

電気・機械工学教育類長 岩崎誠 (E61)

平成16年4月の国立大学法人化から10年余が経ち、平成28年4月に本学は劇的な学部・大学院改革を遂行いたします。既に、昨夏には新専攻による大学院入試が、そして今春には新学科による大学入試が実施され、この原稿執筆中にも新入生が続々と決まりつつあります。平成27年4月発行の本誌第22号の巻頭で、本学鶴飼学長が「名工大版理工系人材育成戦略」をベースとした新学科・新専攻について紹介され、“近年融合化が進む電気・電子と機械を一つの

学科とし、両者の基礎力を共通的に有する電気系技術者、機械系技術者を育成するなど、他大学工学部の一歩先を行く工学教育体系を構築する”と言及されました。その“電気電子と機械を一つの学科としたもの”が、本タイトルの新学科『電気・機械工学科』であります。

ご承知の通り、新学科の母体となる学科は電気電子工学科（以下、EE）と機械工学科（以下、ME）であり、共に教員数 43 名（EE）および 69 名（ME）、一学年（第一部）の学生定員 139 名（EE）および 184 名（ME）を擁す、学生定員の合算は大学全体のその約 35%を占めた大組織の合併となりました。新学科（英称：Dept. of Electrical and Mechanical Engineering, 略称 EM）は、EE と ME の一部の教員が他学科（物理工学科や情報工学科）へ移籍し、教員数 71 名と学生定員 200 名（第一部一学年）の基幹学科となります。その学科内には、「電気電子分野」と「機械工学分野」の 2 つの分野が構成され、各教員はどちらかの分野に所属します。学生は、1 年次では 4 クラスに分かれて共通の導入教育（全学共通科目も含む）を受けます。具体的には、数学、情報科学、基礎科学、語学・文化・倫理に関する科目の他、電気電子・機械工学の基礎として、物理学演習や電気機械工学入門といった演習科目と、熱力学、電気回路、電磁気学を学びます。そして 2 年次からは、電気電子分野または機械工学分野に、在籍学生数の半数ずつで分野分属します。そこからは、電気電子と機械工学の融合科目と共に、各分野の専門科目・実験・実習を学修することとなります。電気電子分野のカリキュラムフローでは、「メカトロニクス」「パワーシステム」「ワイヤレス技術」「エレクトロニクス」を学ぶ 4 つの推奨コースを設定し、その後 4 年次の卒業研究を経て、大学院の博士前期課程（電気・機械工学専攻）に接続しております。新学科のカリキュラムは、2 年次以降にいずれの分野に進むとしても、電気回路・電磁気や各種力学をベースとした電気・機械に関する共通基礎学問を学び、“機械を知る電気技術者”と“電気を知る機械技術者”を育成するプログラムであると言えます。

さて、ご想像に易いとは存じますが、新学科発足までの道程には、多大な努力がございました。旧両学科の設立は、本学前身の名古屋高等工業学校時代である 1906 年（ME）と 1929 年（EE）に遡ることになり、さらに学問的バックグラウンドである電気学会は約 130 年、日本機械学会も約 120 年の歴史をそれぞれ有しております。その間、両分野は独自の学問体系を構築し、内外の産業界・学界に優れた技術者を多数輩出して参りました。当然のことながら、両者の教育・研究の方針や文化には大きな隔たりも見られます。そのような環境・背景の下での合併ですから、様々な苦難も予想されつつスタートを切ることとなりましょう。しかしながら、電気技術と機械技術の融合やその要求などは今に始まったことではなく、我が国の産業界では何十年も前から当たり前のように進展してきた経緯があります。お陰さまで、H28 年度入学生に対する入試では、機械工学科で永年実施されてきた女子推薦も含め、多くの優秀な学生さんに合格を出すことができました。2 年次に電気電子分野に分属された学生さんには、従来通り電影会に入会してもらいます。一方、出口の就職活動に関しましても、両分野の就職担当が割り当てられて、企業側からも分かり易いシステムで学生指導できる予定です。電影会の皆様には、より一層のご支援、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〈ご退任される先生から〉

情報工学教育類 北村 正（電影会前会長、Es48）

～ 47 年の大学生活を皆様に感謝～

名工大を受験したのは、東大の安田講堂事件があり、学生運動が盛んであった 1969 年（昭 44）のことでした。そして電子工学科に入学してから 47 年間の大学キャンパスでの生活を終え、この 3 月でようやく大学生活の卒業となりました。この間、名工大で学部生として 4 年、東工大では今井聖先生の研究室の大学院生として 5 年、助手として 5 年、1983 年（昭 58）に本学に赴任してから 33 年の教員生活を送らせて頂きました。

名工大赴任時は、電子工学科において、回路講座の
早原先生、山田先生とともに研究室の活動を開始しま
した。当時の電子工学科の先生方は学生時代に教えを
受けた先生ばかりで、最初は戸惑ったことを覚えてい
ます。以来、学科改組などで、電気情報工学科、知能
情報システム学科、電気情報工学科、情報工学科での
教育・研究活動と送ってきました。

大きな節目は幾つかありましたが、最初は 1995 年
(平 7) の教授昇任 (知能情報システム学科) でした。
2 号館に移ると共に新たな研究室活動を開始し、研究
テーマの拡大とともに助教授として東工大から徳田
先生を迎えることもできました。2 回目は、国立大学
の法人化に伴う 2003 年 (平 15) の領域設置による活
動と、電気情報工学科への移籍による新しい研究室
(平野先生、後藤先生) での活動を開始した時でした。
そのために 6 号館への引越もしました。3 回目は、2004
年の情報工学科の新設に伴い、2007 年 (平 19)、旧電
子工学科の建物へ引っ越しして、助手として迎えた酒
向先生と共に新たな研究室活動を開始した時でした。
しかし、研究室のある建物の場所に 4 号館が新築され
ることとなり、20 号館へ移転し 3 年間で定年を迎える
こととなりました。思い返すと、ほとんどの先生より
も学科移籍や引越の多い 33 年間だったと思います。

研究活動としては、信号処理・パターン認識・確率
統計を基礎とした、音声合成・認識、口唇合成・認識、
ジェスチャー・手話認識、感性情報処理、音楽情報処
理など人間のコミュニケーションに関する情報処理
の研究を行ってきました。画像、感性、音楽なども扱
っていたため、他研究室よりも女子学生も多かったと
思います。研究室にきた数多くの優秀な学生の皆さん
や優秀なスタッフにより、楽しい研究生活を送ること
ができたことと感謝しております。その他にも、学生時
代に教えを受けた数多くの先生方、同じ研究室で共に
研究活動をした先輩や後輩、眠くなるような私の授業
を受講してくれた多くの学生諸君にも感謝していま
す。教えることを通して、私自身が色々と教えられま
した。

また、電影会、クラブ (卓球) や名古屋工業会など
の同窓会活動を通して、研究・教育生活だけでは得
ることのできない数多くの方々との出会いや貴重な
経験もありました。電影会では前任の中村先生から引
き継いだ会長を 5 年間全うすることができました。こ
れも電影会の幹事の皆さんの力によることと思っ
ております。改めて感謝する次第です。

学内活動では、教育類長、領域長、図書館長、副学
長、卒業生連携室長などにも任じられ、大学の運営を
通して他大学の執行部の先生方や、ほとんど会うこと
できないような企業の役員の方々にお会いすること
ができました。また、学内で下支えしておられる事務
職員の方々とも知り合うことができました。思い起こ
してみると、最後の 10 年間には、名工大の創立百周
年記念事業や第 1 回ホームカミングデーなど、本当に
貴重な経験をさせて頂きました。名工大は 28 年 4 月
から新学科体制となり 80 年以上の歴史を持つ電影会
も変わらざるをえないでしょうが、今後とも新学科と
電影会の益々のご発展を期待しております。

あつという間でしたが、本当に楽しい、貴重な経験
をさせて頂いた 47 年間でした。ご交誼を頂きました
すべての皆さんに心より感謝いたします。

＜ご退任される先生から＞

情報工学教育類 岩田 彰

私は、1950 年 11 月 30 日愛知県に生まれ、1975 年 3
月名古屋大学大学院工学研究科を修了、同年 4 月名古
屋工業大学助手に着任しました。その後、講師、助教
授を経て、1993 年 4 月教授、2002 年 11 月副学長 (専
任)、2004 年 1 月再び教授、2016 年 3 月定年にて退職
するまで名古屋工業大学に 41 年間勤務しました。こ
の間、多くの方々にお世話になり、長年のご厚誼に感
謝致します。

その間、編著書 7 冊、学会誌論文 77 件、国際学会
発表 70 件、特許出願 36 件、うち特許査定 16 件など
を通して、信号処理技術、情報通信技術、医用情報処
理技術、情報セキュリティ技術などの分野において教

育・研究従事、その発展に努めて参りました。

私は1969年、大学受験したのですが、1月下旬になってから東京大学入学試験中止という事態となり、その年の大学受験生は大混乱。私は結局、名古屋大学を受験することし、幸運にも無事に合格することができましたが、その年の名大生は関東からいわゆる箱根越えて入学した学生も多く、その年度だけは異質でした。大学入学直後、学生運動によって教養部建物封鎖、授業なしの時期が半年近く続きました。このときの経験から、人生何が起こるか分からないということが身に染み、その後の幾度かの荒波もこのとき鍛えられた精神で乗り越えてきたのではないかと思います。

その後、1975年4月<初代>情報工学科の創設3年目に名工大に着任し、教員生活を続けながら博士論文研究を行い、1981年3月名古屋大学より工学博士の学位を取得しました。

1982年4月から1983年9月まで、(当時)西ドイツ、フンボルト財団研究員としてギーセン大学医用情報処理研究所において医用情報処理に関する研究を行いました。このときの経験が、国際感覚を身に付けることに大いに役立ったと思います。

研究面では、人工知能、とりわけ、脳神経回路網モデルの工学的実現を目指すニューラルネットワークに関する研究に注力し、1988年には、DSPを4個リング状に連結して、誤差逆伝搬法の前向き演算と後向き演算を当時のスーパーコンピュータの20倍の速度で高速演算する装置「ニューロターボ」を、電子回路設計製作会社と共同で設計製作したところ、全国の大学や研究機関において100台程度活用され、ニューラルネットワークに関する研究の発展に大きく貢献したものと考えています。

さらに、2009年には、人間の聴覚神経機構をモデル化した処理プロセスをFPGAに実装し、周辺から発せられる音をリアルタイムに認識する装置「サウンド・ウォッチャー」を設計製作し、現在も実用化に向けた研究を継続しています。

2013年から、文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「地域と育む未来医療人“なごやかモデル”」

(名古屋市立大学、名古屋工業大学、名古屋学院大学の共同事業)において、名古屋工業大学側の代表となって同事業を推進しています。

一方、大学運営の面では、2002年、名古屋工業大学副学長(専任)に就任し、柳田学長(当時)のもと、領域設置、全学学科改組(電気電子工学科、<第2次、現在の>情報工学科創設)、研究費配分改革、知的財産本部設置などに尽力し、その実現に貢献してきました。人事管理組織としての領域が存在することで、学科・専攻などの教育課程を時々の社会的要請に応じて柔軟に適応することができ、2004年度の全学学科改組、および、2016年度の全学教育課程改組につながっています。

以上、“社会課題を解決する工学”を基本理念として、本学の教育、研究、大学運営、産学連携の諸活動に邁進してきました。現在、私は名工大プロジェクト教授として、文部科学省未来医療研究人材拠点形成事業“なごやかモデル”、総務省SCOPE事業“BLEビーコンによる高齢者見守りシステム”の事業推進に従事しております。

末筆ながら、名古屋工業大学の益々のご発展を祈念するとともに、皆様のご健勝を祈念致します。

<平成27年度の就職状況について>

電気電子工学教育類 就職担当 大原繁男

平成28年3月卒業予定の学生を対象に就職担当(電気電子工学関連)を務めさせていただきました。対象となった学生は博士後期課程2名、前期課程111名、学部生174名(内二部生6名)でした。なお、博士前期課程学生のうち2名、学部生のうち125名(72%)が進学しています。

今年度は、経団連による選考解禁時期の指針が4月から8月に変更されました。学生の動き出しが遅くなることを心配して、2月から学生への働きかけを始め、早く志望を固めることを意識するように伝えましたが、実際に学生の志望企業が固まったのは5月中旬だったと感じています。経団連に加盟していない企業もありますし、加盟企業でもマッチングなどの呼称で実

質的な選考が4月ごろから始まり、8月末まで続きました。6月から7月に最も活発に就職活動が行われ、8月に入った途端に奇妙に静かな期間があり、ゆっくりと内定が決まっていたと感じています。今年度は民間企業への就職、公務員試験、進学といったことが8月に一気に決まったこととなります。

求人数は、例年通りに、非常に多かったですし、162社の訪問を受けました。9月に入ってから85社から追加募集の連絡がありました。今年度はMoodleを利用して、就職担当として持っている情報やアドバイスを積極的に学生に発信しました。例年通り、自動車関連、電機、電力などが人気の業界でしたが、重工を希望する学生も多かったように思います。金属や化学、食品の業界からも人材を熱望されましたが、就職の好調さもあって、なかなか学生が希望しない状況でした。視野を広くして、いろいろな業界への就職を考えて欲しいと思います。

経団連の榊原会長が「学生、企業、大学の3方が全部損をした」と総括したように、今年度の就職活動は長かった、というのが正直な感想ですが、学生の就職は総じて順調でした。無事に就職担当を終えることができ、安堵した次第です。

＜平成27年度情報系就職状況について＞

情報工学教育類 就職担当 和田山 正

平成27年度の情報系就職担当として、竹内一郎教授とともに、情報系の修士学生・学部学生の就職活動をサポートしました。平成27年度の修了者・卒業者は、博士前期（修士）課程106名、第一部学生184名、第二部学生2名でした。修士学生の修了者のうち、4名が博士後期課程に進学します。一方、修士修了生のうち、97名は一般企業に就職します。また、学部学生では、卒業生の6割にあたる113名が大学院に進学し、55名が一般企業に就職します。公務員は3名でした。

情報系への求人は、378社から求人を受領しました。企業に就職を決めた学生は、自由応募、もしくは学校推薦のいずれかに軸を置いて就職活動を行いました。27

年度の結果では、修士の場合、推薦による進路決定が49%、学部では26%でした。情報系では、年々推薦応募よりも自由応募の割合が増える傾向がありましたが、27年度の修士の推薦による決定の割合は26年度と同レベルであり、推薦による決定率の下げ止まりが見られます。大学側の立場としては、必要以上に時間とエネルギー、そして金銭的負担を学生に強いることになる長期の自由応募による就職活動よりも、推薦応募による学生の就職活動の短期化に期待を持ちたいところですので、この傾向は歓迎できるものだと考えています。

27年度の就職・採用活動の大きな特徴は、ご承知の通り、企業側の採用活動スケジュールが例年のものから大きく変更された点です。経団連が策定した「採用選考に関する指針」に基づき、27年度では、「学生が本分である学業に専念する十分な時間を確保するため、採用選考活動の早期開始を自粛」し、選考活動を卒業・修了年度の8月1日以降とすることになりました。ところが実際に蓋を開けてみると、学生の就職活動は例年と比べて大幅に長期化しました。また、多くの企業側にしても、採用スケジュール変更への対応に苦慮されているように見受けられました。結果として、企業側・学生側の誰も得をすることのない就職・採用活動の一年だったと感じる人は多いのではないのでしょうか。28年度の採用スケジュールの変更がそれをよく示しています。27年度に就職活動をした学生たちは、そのような状況が良く読めない、例年と大きく異なる環境の中で自分の判断を頼りに良く頑張ったと思います。

最後になりますが、学生の就職活動でお世話になりましたOB各位に厚く御礼申し上げます。また推薦応募の学生へのご支援をお願い申し上げます。

＜寄稿原稿＞

量子コンピューターを「弁証法解析」する

安良城 勝也 (E25)

安良城勝也様 (E25) から論文をご投稿いただきました。電影会 HP の以下のでんえい会誌のページに論文を掲載させていただいておりますので、ご一読ください。 <http://www.denei.jp/magazine/>

平成 27 年度事業報告

1. 会合
 - 電影会総会 H.27.5.22 名工大 19 号館
 - 第 1 回役員会 H.27.11.4 名工大大学会館
 - 学内幹事会 H.27.12.15 名工大大学会館
 - 第 2 回役員会 H.28.3.2 名工大大学会館
 - 幹事会 H.28.3.30 ホテルオークレストラン
2. 事業
 - 学生向け講演会
 - (1) H.27.10.21
日本 IBM(株) 藤原 忍 氏
「東京オリンピック・パラリンピックを支える IT 技術」
 - (2) H.27.10.28
大同特殊鋼(株) モノづくり改革部長
山田 龍三 氏 (Es62)
「生産改革・改善に関わる取り組みについて」
 - (3) H.27.10.30
(株)村田製作所 シニアリサーチャー/同志社大学
大学院教授 細谷 達也 氏
「ワイヤレス給電と技術革新に向けて」
 - (4) H.27.11.6
カシオ計算機(株) 総務人事統括部 CSR 推進室
担当課長 山田 浩 氏 (E49)
「カシオのエンジニアから見た日本のエレクトロニク
ス産業の栄光と挫折」
 - 新入生向け電影会案内 H27.4.3
 - 卒業祝賀会 H28.3.23
 - 電影会会誌発行(第 22 号)H.27.4
 - 大学行事補助 4 件
 - 電影会賞贈呈 H28.3.23
 - 第 9 回卒業生と学生の懇談会 H27.4.24
 - 第 10 回卒業生と学生の懇談会 H28.3.18

平成 27 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	5,127,637	通信費	621,977
入会金	1,640,000	印刷費	667,100
工業会より	140,000	事務費	12,445
利息	583	会合費	419,016
雑収入	949,100	学生行事補助	1,092,884
寄付金	1,089,898	大学行事補助	20,000
		総会補助	40,830
		支部活動費	150,000
		名簿管理・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ経費	74,499
		雑費	2,034
		記念品	346,464
		人件費	300,000
		繰越金	5,199,969
合計	8,947,218	合計	8,947,218

平成 28 年度事業計画 (案)

1. 会合
 - 電影会総会 ○役員会
 - 幹事会 ○学内幹事会
2. 事業
 - 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
 - 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会
 - 電影会ホームページの充実 ○電影会賞
 - 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会

平成 28 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	5,460,045	通信費	640,000
入会金	775,000	印刷費	670,000
工業会より	70,000	事務費	20,000
利息	500	会合費	255,000
雑収入	430,000	学生行事補助	800,000
寄付金	1,200,000	大学行事補助	50,000
		総会補助	50,000
		支部活動費	150,000
		名簿管理・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ経費	10,000
		雑費	10,000
		人件費	300,000
		繰越金	4,980,545
合計	7,935,545	合計	7,935,545

平成 28 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎(E13)
 犬飼英吉(E28)
 神谷昌宏(E36)
 中村光一(E41)
 北村正(Es48)
- 会長 川村信之(E53)
- 副会長 木下清彦(E36) 川越英二(E47)
 安藤幹人(E57) 松尾啓志(J58)
- 理事 岩塚真之(E56) 山中清(J 52)
 曾我哲夫(E57) 三宅正人(E60)
- 監事 市原正樹(E48)
- 庶務理事 廣瀬光利(E50) 小坂卓(EJh6)
- 会計理事 酒井公孝(J54) 南角吉彦(Ih11)
- 編集理事 関健太(EJh12) 伊藤宏隆(EJh6)
- 庶務補佐 伊藤孝行(Ih7)
- 会計補佐 前田佳弘(EJh16)

学位取得者一覧

情報工学専攻

平成 27 年 9 月 課程修了者（授与日：平成 27 年 9 月 2 日）

氏名	論文題目	主査教員名
MIYAN SABA BATOOL	Reconstruction of Texture Objects without knowing Image Correspondences	佐藤 淳

平成 27 年 9 月 論文申請者（授与日：平成 27 年 9 月 2 日）

富田 一	電磁雑音源としての衝突電極による静電気放電に関する実験的研究	王 建青
------	--------------------------------	------

平成 28 年 3 月 課程修了者（授与日：平成 28 年 3 月 23 日）

後藤 秀聡	荷重積分法による画像の局所アピランスの頑健で正確なパラメトリック記述	本谷 秀堅
牧野 宏明	用途指向形SRモータの制御に関する研究	小坂 卓
松家 大介	ガルバノスキャナ位置決め装置における高速・高精度位置決め制御と軌道追従制御	岩崎 誠
大塚 孝信	サービス指向ワイヤレスセンサネットワークの理論とその実装に関する研究	伊藤 孝行
酒井 昌夫	パラレルワイヤ教示装置を用いたロボット教示法に関する研究	森田 良文

平成 28 年 3 月 特例 課程修了者（授与日：平成 28 年 3 月 31 日）

井上 円	輝度勾配自己相関特徴を用いた起床動作の推定に関する研究	梅崎 太造
奥村 健太	演奏表情と楽譜情報の関連付けに基づく鍵盤楽器演奏の統計的モデル化に関する研究	北村 正

機能工学専攻

平成 28 年 3 月 特例 課程修了者（授与日：平成 28 年 3 月 31 日）

成田 知隆	Si 基板上 AlGaIn/GaN HEMT における電界発光と光応答に関する研究	江川 孝志
-------	---	-------

創成シミュレーション工学専攻

平成 28 年 3 月 課程修了者（授与日：平成 28 年 3 月 23 日）

松尾 琢也	ジョイントフィルタによる高効率な奥行き推定に関する研究	石橋 豊
MYA SITHU	Study on QoE Assessment and QoS Control in Networked Virtual Environments with Haptic Sense	石橋 豊

平成 28 年 3 月 論文申請者（授与日：平成 28 年 3 月 23 日）

前田 和昭	高品質・生産性向上を実現する言語処理系と構造化データ表現に関する研究	岩田 彰
-------	------------------------------------	------

未来材料創成工学専攻

平成 28 年 3 月 論文申請者（授与日：平成 28 年 3 月 23 日）

ASHMI BHUPENDRA MEWADA	Carbon Dots as Targeted Drug Delivery System for Treatment of Cancer Cells	曾我 哲夫
------------------------	--	-------

平成 28 年 3 月 特例 課程修了者（授与日：平成 28 年 3 月 31 日）

NORHANA BINTI MOHAMED RASHID	SYNTHESIS OF HEMATITE NANOSTRUCTURES FOR DYE-SENSITIZED SOLAR CELL APPLICATION	曾我 哲夫
------------------------------	--	-------

入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

平成 28 年度入学者選抜状況

電気・機械工学科（一部）

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	20	110	70
志願者数	56	397	705
受験者数	56	383	376
合格者数	21	116	90

情報工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15	85	45
志願者数	37	311	399
受験者数	37	299	229
合格者数	15	88	55

第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	39	21
受験者数	36	21
合格者数	5	6

編入学・転入学 (一部:3年)

	電気電子工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	51	19
受験者数	49	19
合格者数	12	5

大学院・情報工学専攻(博士前期課程)※

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	42	78	若干名
志願者数	50	149	5
受験者数	50	145	5
合格者数	48	109	4

電気情報工学科 (二部:一般選抜前期日程)

募集人員	受験者数	志願者数	合格者数
5	31	30	7

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)※

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	4	4	4

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)※

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	6	6	6

※機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻の選抜状況は省略

平成27年度卒業生就職状況

	電気電子工学科			情報工学科		
	大学院※	一部	二部	大学院※	一部	二部
卒業生	111	161	3	106	184	2
進学者	2	125	0	4	113	1
研究生	0	1	0	0	3	0
一般企業	105	33	2	97	55	1
公務員	0	2	0	0	3	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	3	0	0	0	0	0
休学他	1	7	3	3	5	0
未定者	0	0	0	2	5	0

※機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻を含む

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。平成28年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
五十嵐 知真, 第一部電気電子工学科
加藤 達大, 第一部電気電子工学科
堀池 直登, 第一部電気電子工学科
伊藤 誠, 第一部電気電子工学科
奥田 雅紀, 第一部電気電子工学科
加納 真理, 第一部電気電子工学科
松井 優人, 第一部電気電子工学科
山口 大介, 第二部電気情報工学科

氏名, 所属
小川 悟史, 第一部情報工学科
樽林 秀晃, 第一部情報工学科
小林 裕和, 第一部情報工学科
野々目 朋晃, 第一部情報工学科
藤下 太一, 第一部情報工学科
山西 元樹, 第一部情報工学科
山本 康太, 第一部情報工学科
渡邊 賢人, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
電気設備学会全国大会発表奨励賞 (2015.11), 猪飼千真, 電気電子工学科, 青木睦准教授
電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2015.6), Mya Sithu, 創成シミュレーション工学専攻, 石橋豊教授
名古屋工業大学学長表彰(学術活動部門) (2016.3), Mya Sithu, 創成シミュレーション工学専攻, 石橋豊教授
ICTビジネス研究会賞 (2016.1), 大塚孝信, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授

総務省東海総合通信局長賞 (2016.1), 大塚孝信, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
IEEE Computer Society Japan Chapter JAWS Young Researcher Award(2015.10), 森頭之, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
第78回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2016.3), 徳田渉, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
第78回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2016.3), 榎優一, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
第78回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2016.3), 仙石晃久, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
第78回情報処理学会全国大会 学生奨励賞 (2016.3), 林政行, 情報工学専攻, 伊藤孝行教授
電子情報通信学会環境電磁工学研究会若手優秀賞 (2015.7), 佐藤啓介, 情報工学専攻, 王建青教授
平成 27 年度初めての研究会優秀発表賞, 電子情報通信学会無線通信システム研究会(2015.6), 國友啓佑, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
平成 27 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会奨励賞(2016.1), 中島啓太, 情報工学専攻, 岡本英二准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2016.3), 市川尚澄, 機能工学専攻, 加藤正史准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2016.3), 小濱公洋, 機能工学専攻, 加藤正史准教授
IEEE AP-S Nagoya Chapter and IEEE MTT-S Nagoya Chapter, 2015 Student Award (2015.4), 橋本誠, 情報工学専攻, 菊間信良教授
電気学会 2014 年産業応用部門大会優秀論文発表賞 (2016.3), 中根大樹, 情報工学専攻, 小坂卓准教授
平成 27 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 賞 (2016.1), 伊藤雅俊, 情報工学専攻, 佐藤徳孝助教
名古屋工業会賞 (2016.3), KIM CHAN YOUNG, 電気電子工学科, 佐藤徳孝助教
電気学会優秀論文発表賞 B 賞 (2016.1), 野田大輔, 情報工学専攻, 関健太准教授
IEEJ, Int. Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization, Best presentation in session, 藤原匠汰, 電気電子工学科, 関健太准教授
マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2015)ヤングリサーチ賞(2015.7), 新帯里奈, 情報工学専攻, 高橋直久教授
マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2015)ヤングリサーチ賞(2015.7), 平児祐樹, 情報工学専攻, 高橋直久教授
計測自動制御学会中部支部 支部賞学業優秀賞 (2016.3), 大谷淳司, 電気電子工学科, 竹下隆晴教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2016.3), 磯崎順平, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
電気学会優秀論文発表賞 B 賞 (2016.1), 加納真理, 電気電子工学科, 竹下隆晴教授
電気学会優秀論文発表賞産業応用部門表彰 (2016.8), 瀧田真也, 情報工学専攻, 竹下隆晴教授
第40回東海ファジィ研究会優秀賞 (2016.2), 小泉智也, 情報工学科, 中村剛士准教授
日本音響学会東海支部優秀発表表彰 (2016.3), 助川正人, 創成シミュレーション工学専攻, 南角吉彦准教授
FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム FIT 船井ベストペーパー賞 (2015.9), 増田清貴, 情報工学専攻, 松井俊浩准教授
FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞 (2015.9), 富板雅大, 情報工学専攻, 松井俊浩准教授
名古屋工業大学基金学生研究奨励金副学長表彰 (2016.3), 山田彩加, 情報工学専攻, 森田良文教授
Int. Conf. on Control, Automation and Systems 2015, Student Paper Award (2015.10), 山田彩加, 情報工学専攻, 森田良文教授
Int. Conf. on Control, Automation and Systems 2015, Student Paper Award Finalist (2015.10), 山内大地, 情報工学専攻, 森田良文教授
名古屋工業会賞 (2016.3), 北村瑞紀, 電気電子工学科, 森田良文教授
名古屋工業会賞 (2016.3), 服部仁美, 電気電子工学科, 森田良文教授
電気学会東海支部長賞 (2016.3), 柚原勇助, 電気電子工学科, 森田良文教授
(公社)日本電気技術者協会中部支部霜寿賞 (2016.3), 伊井章真, 第二部電気情報工学科, 森田良文教授
9th Asia-Pacific International Conference on Lightning, IEEJ, Best Young Scientist Award (2015.6), 多久和鉄也, 情報工学専攻, 安井晋示准教授

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。平成 28 年 2 月末までの寄付分を掲載しております。

昭 13 大原栄	昭 22 市川儀男 一ノ瀬和二郎 伊藤季彦 遠藤正敏
昭 14 多田良之	大橋五郎 玉田博二 西川清司 三木忠夫 村上庄之介
昭 16 阿部勝美	昭 23 中井二夫 牧野和正 水谷末一 村川邦夫 分部力
昭 17 鶴見一郎	昭 24 井上高明 岡田勇 細井源太郎 右高泰
昭 18 祖父江晴秋 本多直人	昭 25 青山春彦 安良城勝也 泉館昭則 荻野孝 加藤裕
昭 19 丹羽允	後藤正 白井光雄 須田馨 林文雄 安井泰一
昭 20 伊藤博英	昭 26 伊藤健男 岡村実夫 沖辻寛 奥村士郎 加藤正昭
昭 21 松井康太郎	兼子共明 小澤智士 小林繁利 阪口貢 原行一

- 吉野毅
 昭28 犬飼英吉 杉岡太郎 西澤明 山田速水
 昭29 市川次郎 市川新一郎 伊藤英輔 太田耕二 酒井兼夫
 志賀弘 都筑登 渡邊康男
 昭30 内田忠良 北野祐一 武田節子
 昭31 鈴木敏孝
 昭32 植田俊男 岡野修 徳永正司 水谷安郎 三輪純一郎
 昭33 木村欽哉 木村隆信 小森秀郎 寺社下政美 瀬口令夫
 高橋等 寺林康治 中谷恭朗 兵藤隆 藤田正浩
 水野光雄
 昭34 伊藤智彦 草野洋 紅林 勝 清水政克 鈴木倭
 吹野勝重 山田要
 昭35 岡田昌孝 後藤秋生 藺田耕一 中西和義
 昭36 神谷昌宏 木下清彦 黒田和助 西村秀夫 細野猪三雄
 馬路才智 増田勝一
 昭37 伊藤信大 久保村徳太郎 田中一義 土居秀行
 野田昭 水谷欽弥
 昭38 小田切啓幸 是木修一 田口守彦 中谷光男 日高晃
 昭39 梅津寛 岡田守弘 加藤勝英 田村英也 永田興三
 水澤健一 矢田公一 山本俊伸 吉田嶽彦
 昭40 石川義明 今村常男 大隅東也 落合一彦 久保原誠司
 竹下孝昭 田島暁示 辻強平 西阪公一 升田裕之
 毛受彬 山口善民
 昭41 石丸隆英 大島俊蔵 神本勝巳 久保昭彦 中村光一
 彦坂紘二郎 前越久
 昭42 伊藤洋太郎 小島一男 中山静夫 水野重雄 吉村洋典
 阿江勉 青木猛 宇佐美忠男 櫃本紘一
 昭43 稲村光夫 重見健一
 昭44 菅野宗二 佐藤恒夫 辻修治
 昭45 加藤友康 須藤章夫 中島豊四郎 野口義廣 南陽太郎
 松崎敦志
 昭46 高瀬涉
 昭47 加藤元三郎 川越英二 田島耕一 山内一昭
 昭48 市原正樹 川端康己 蓮田史則 三木敏裕 米山高志
 北村正 中島正敏
 昭49 西村政信 藤沢篤史 前田光雄 水野正路 朝倉吉隆
 昭50 河戸勉 廣瀬光利 眞鍋和人 浅井良一 浜岡重男
 昭51 東功 恩地秀男 太田仁啓
 昭52 内海和彦 藤社彰 山中清 倉知喜久雄 久保田徹
 宮脇誠 森壽保
 昭53 川村信之 木村準
 昭54 加藤修 山崎誠 吉田誠治 大江準三 大前義信
 昭55 岩崎政彦
 昭56 石橋豊 萩原秀和 木澤充泰 山口初一 浅羽哲朗
 昭57 横山清子 安藤幹人 谷本弘二 野口敏彦 菊間信良
 内匠逸 山内雄敦
 昭58 松尾啓志 鈴木隆夫
 昭59 酒井泰誠 堀井良和 徳田恵一
 昭61 熊崎昭 伊藤久治
 昭62 犬塚信博 平田達也 岩上佳文 羽賀政雄 森田良文
 昭63 佐藤俊樹
 平元 林宏明 八木健
 平2 庄直之
 平4 青木睦
 平6 小坂卓 若本典寛
 平7 松井俊浩
 平10 佐藤宣夫 布目敏郎
 平11 酒向慎司 妻木宣明
 平12 沢辺敦 岸直希
 平18 烏山昌幸
 平21 本種和弘
 平22 小林真雄 林恭平 浅田徳弘
 平23 鹿田景之

- 昭40 E40 同窓会
 昭48 Es48 同窓会
 昭22 E22 同窓会

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

平成28年度電気・機械工学教育類・専攻
 教育類長/専攻長 岩崎 誠 教授
 副教育類長/専攻長(電気電子分野) 王 建青 教授
 平成28年度情報工学教育類・専攻
 教育類長/専攻長 松尾 啓志 教授
 副教育類長/専攻長 和田山 正 教授
 竹内 一郎 教授
 梅崎 太造 教授

平成28年度就職担当

電気電子工学教育類 曾我 哲夫 教授
 情報工学教育類 本谷 秀堅 教授
 山本 大介 准教授

◎ 平成27年度退職教職員

電気電子工学教育類 桜井 優 教授(定年退職)
 青柳 倫太郎 助教(転出)
 情報工学教育類 岩田 彰 教授(定年退職)
 北村 正 教授(定年退職)

◎ 平成27年度新任教職員

電気電子工学教育類 前田 佳弘 准教授
 加藤 慎也 助教
 情報工学教育類 森山 甲一 准教授
 金 鎔煥 助教
 烏山 昌幸 助教

総 会 通 知

平成28年度電影会総会並びに懇親会のお知らせ

日時: 平成28年5月20日(金)

17時00分~20時30分

会場: 名古屋工業大学

<総会・講演会> 4号館1階ホール

<懇親会> 大学会館1階 生協大食堂

<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

会次第:

16時30分 総会受付開始(4号館1階ホール)

17時00分 総会

17時30分 講演会 (4号館1階ホール)

演題: 「世界NO. 1への挑戦

— 世界最高速エレベーターの開発 —

講師: 松原 和則氏

(東芝エレベータ(株)代表取締役社長, E55)

18時30分 懇親会 (大学会館1階 生協大食堂)

懇親会会費: 5,000円(一般) 2,000円(学生)

(当日会場受付で頂きます)

なお、昭和41年3月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満50年をお祝いいたしましてご招待させていただきます(会費無料)とともに、ささやかではありますが、記念の品をお贈りいたします。

今年も学科長、就職担当教授をはじめ多数の教員、博士後期課程(ドクターコース)の留学生を含む在学生も出席予定です。皆様お誘い合わせの上のご出席をお待ち致しております。

関東支部からのご案内

毎年、名古屋工業会東京支部総会・講演会の日程に合わせて電影会関東支部の懇親会を開催しています。今年は株式会社NTTドコモ社長の加藤熏様(昭和50年電子工学科,52年修士卒)にご講演頂くことになりました。第一線でご活躍の講師の貴重なお話が伺えるものと思います。電影会関東支部の皆様には同期、ご友人をお誘い合わせの上是非ともご出席下さいますようお願い致します。また詳細なご案内や、支部の活動等についてはメールにて逐次ご連絡させていただきます。

名工大メールアドレスを取得いただくか、電影会関東支部の登録サイトへアクセス頂ければ幸いです。こちらのサイトにアクセスしてください。<http://goo.gl/fV1QFH>または二次元バーコードを利用したアクセスも可能です。



日時 平成28年11月26日(土)

総会・講演会 14時30分～16時00分

講師 株式会社NTTドコモ代表取締役社長
加藤熏様

講演タイトル「いつか、あたりまえになることを」(仮題)

懇親会 16時30分～18時00分

場所 中野サンプラザ 13F コスモルーム
東京都中野区中野 4-1-1 TEL03-3388-1151
(JR 中央・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅
北口1分)

懇親会費 名古屋工業会会員 8000 円

非会員 9000 円 卒業3年以内 4000 円

関西支部からのお知らせ

当支部では毎年7月に支部総会を開催しています。本年も以下の日時と場所で鋭意準備中です。

日時：平成28年7月2日(土) 18時ごろから

場所：メルパルク大阪(新大阪駅から西へ徒歩4分)
皆様お誘いの上ご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、出席したいが昨年まで案内が届いていない方は、下記にご連絡ください。今後、支部総会の案内を送付いたします。

・連絡先 村上仁志 (Es54)

hitosi.m@theia.ocn.ne.jp

〒592-8349 大阪府堺市西区諏訪森東町 2-131-16

名古屋工業大学研究協力会総会特別講演のご案内

日時 平成28年5月30日(月)16時30分～17時50分

講師 多摩川精機株式会社代表取締役副会長
萩本範文氏(E43)

参加申込:E-mail : kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp

Fax : 052-735-5538

主催:名古屋工業大学 研究協力会

共催:名古屋工業大学産学官連携センター

協賛:名古屋工業会

参加費:無料

名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会平成28年度定期総会及び会員総会が、平成28年5月21日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしく願います。

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口 : 2000 円

郵便振込先: 00860-9-19618 電影会

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1ページ約1600字です。

編集委員 松尾 啓志(J58) 関 健太(EJh12)

小坂 卓(EJh6) 伊藤 宏隆(EJh6)

南角 吉彦(Ih11)

発行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

Tel: (052) 735-5459 (ながれ領域事務室)

Tel: (052) 735-5420 (事務:小坂庶務理事)

Fax: (052) 735-5420 (事務:小坂庶務理事)

E-mail: office@denei.jp URL: <http://www.denei.jp/>